

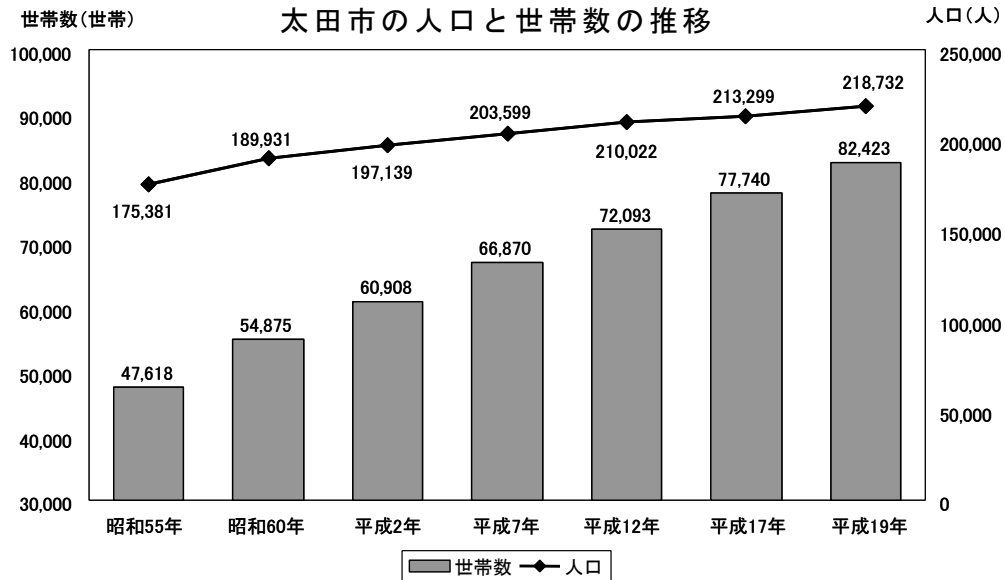
第 3 章

太田市の現状

第1節 統計から見た現状

(1) 人口及び世帯数

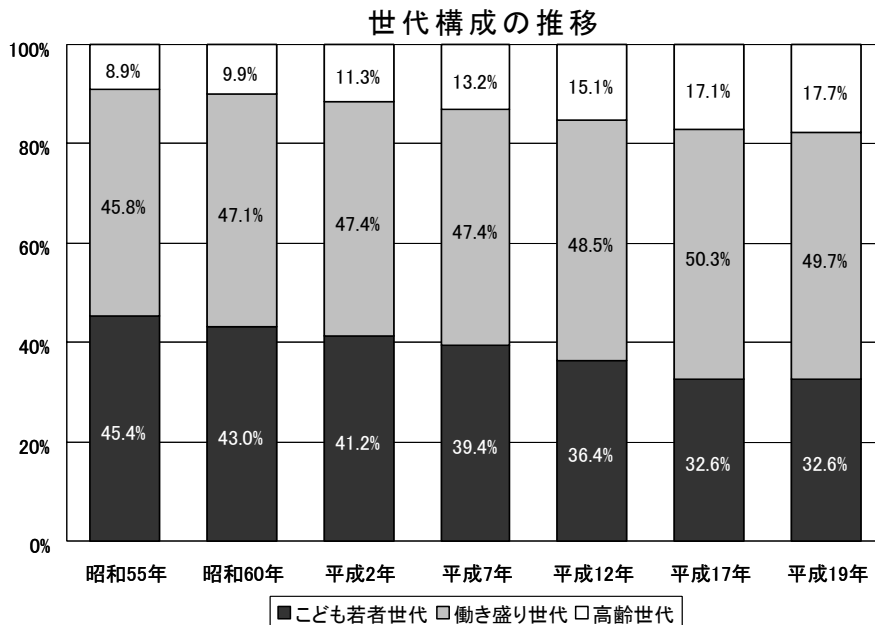
人口を見ると、年々増加しており、昭和55年に比べ平成19年には約4万3千人の増加となっています。また、世帯数も年々増加しており、昭和55年に比べ平成19年には約3万4千世帯の増加となっています。



※出典：昭和55年～平成17年は国勢調査(ただし、昭和55年～平成12年までは、旧太田市、旧新田町、旧尾島町、旧藪塚本町の数値を合計)、平成19年は太田市統計(平成19年10月1日)より

(2) 世代構成

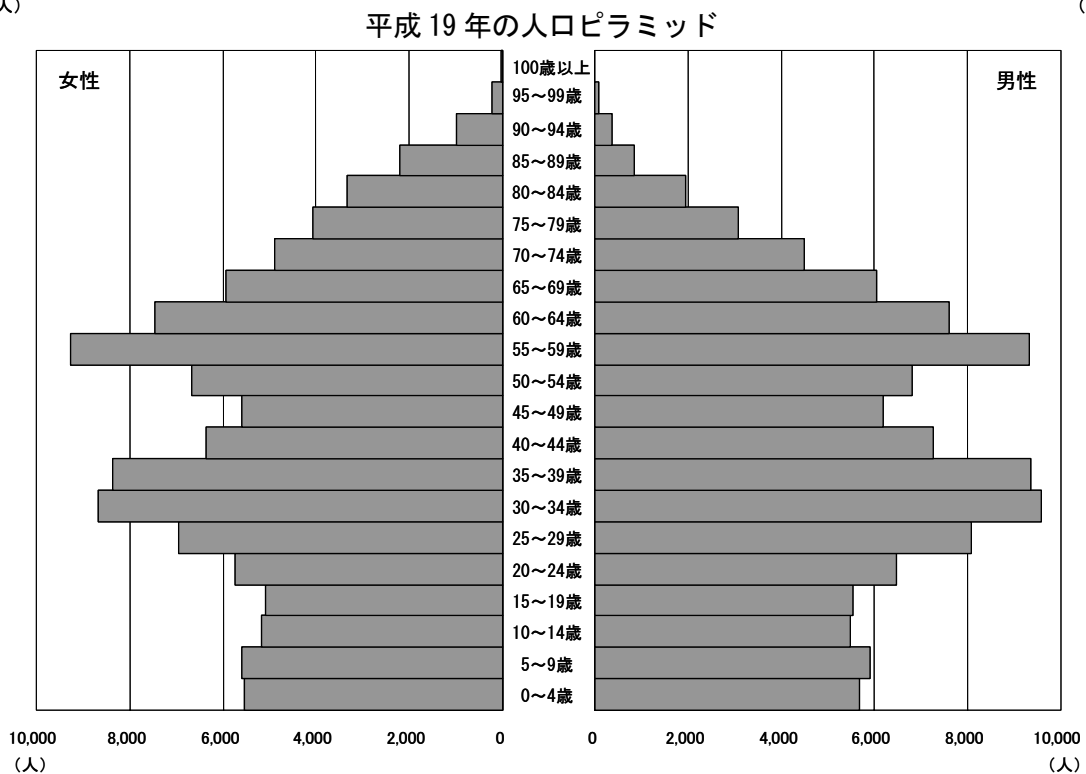
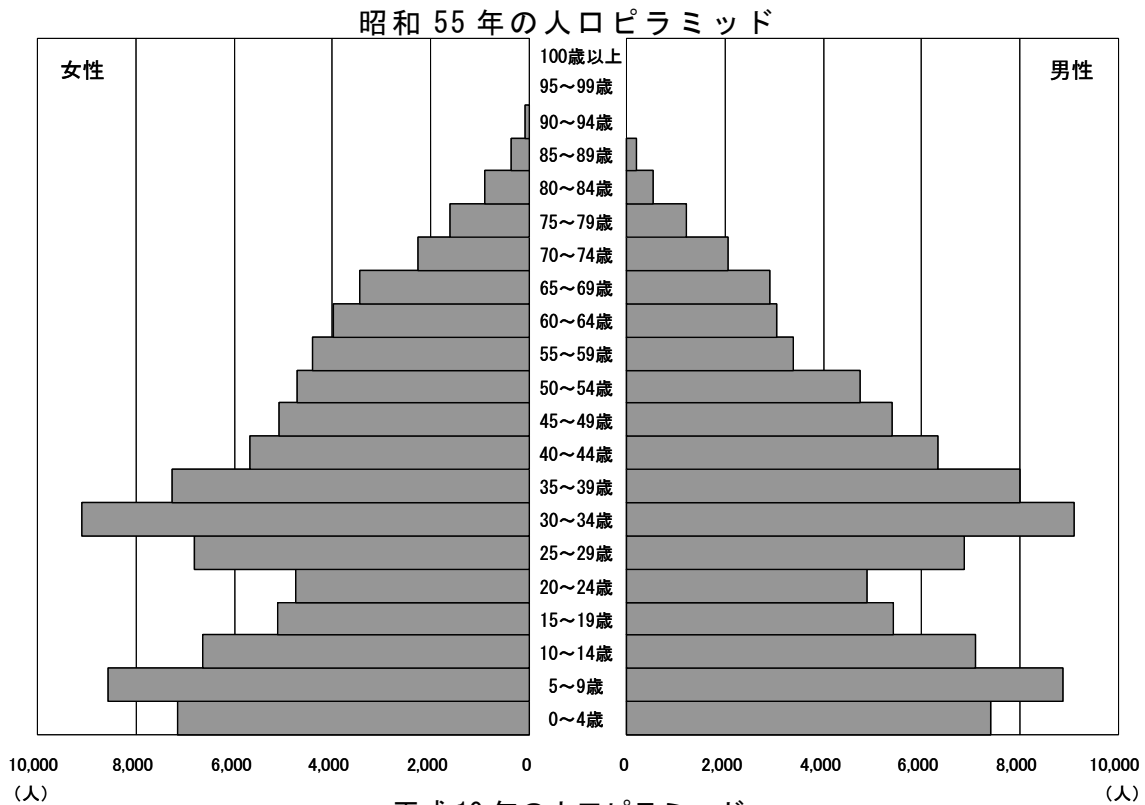
世代別の人口割合を見ると、昭和55年に比べ、平成19年は、こども若者世代(0歳～29歳まで)が12.8%の減少、高齢世代(65歳以上)は8.8%の増加となっており、少子高齢化の傾向が見られます。



※出典：昭和55年～平成17年は国勢調査(ただし、昭和55年～平成12年までは、旧太田市、旧新田町、旧尾島町、旧藪塚本町の数値を合計)、平成19年は太田市統計(平成19年4月1日)より

(3) 人口ピラミッドの変遷

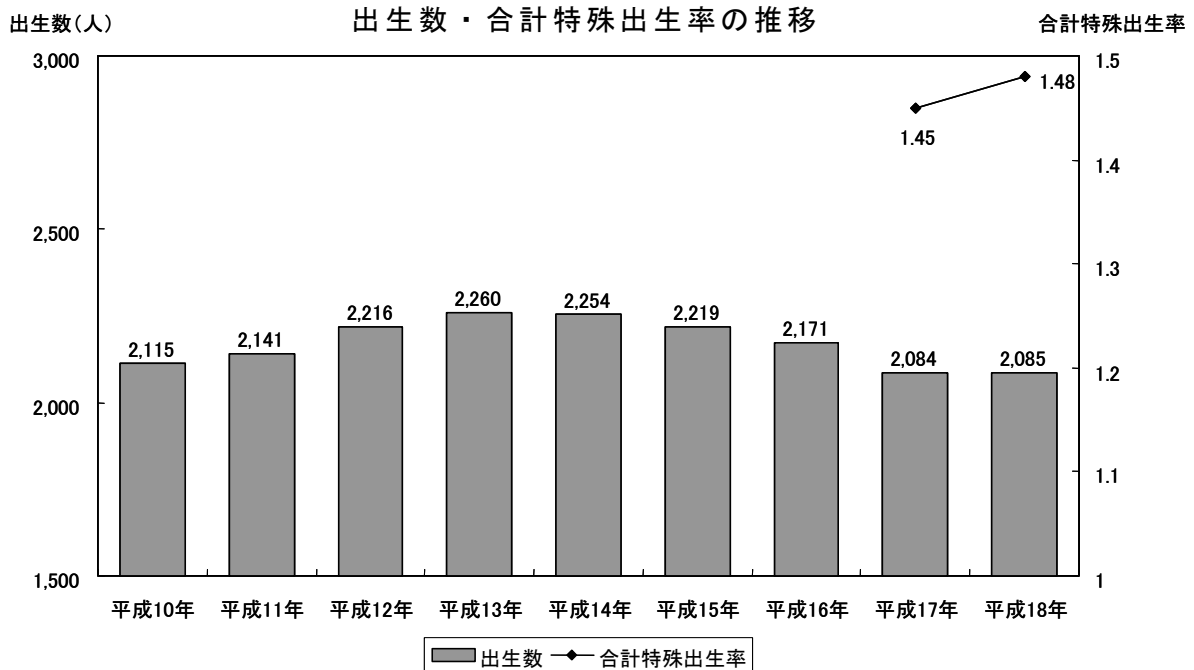
昭和 55 年の人口ピラミッドは通称「星型」と呼ばれ、ベビーブームを反映し、9歳以下及び30歳から39歳が多くなっています。一方、平成 19 年の人口ピラミッドは「釣鐘型」と呼ばれ、こどもが少なく青年、壮年層が多くなっています。



出典：昭和 55 年は国勢調査、平成 19 年は太田市統計（平成 19 年 4 月 1 日）より

(4) 出生数の状況

近年では、出生数が減少しています。

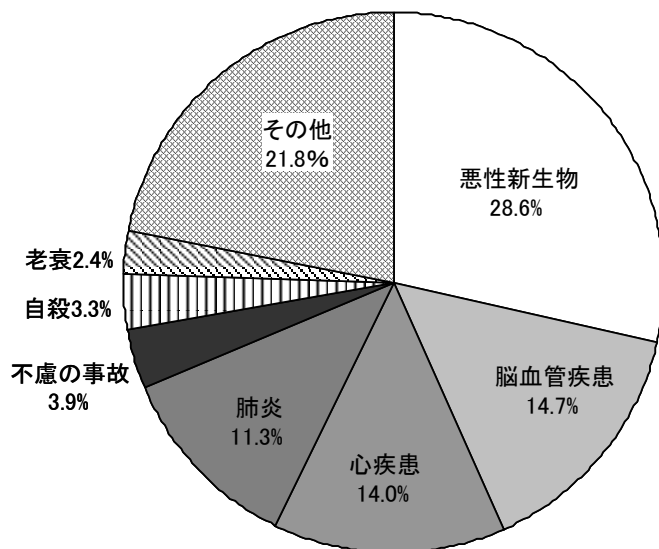


※出典：健康福祉統計(群馬県健康福祉局)
合計特殊出生率は合併後の太田市の数値

(5) 主要死因別死亡者数の割合

悪性新生物(がん)の割合がもっとも高く、脳血管疾患、心疾患、肺炎の順になっています。

主要死因別の割合(平成17年)



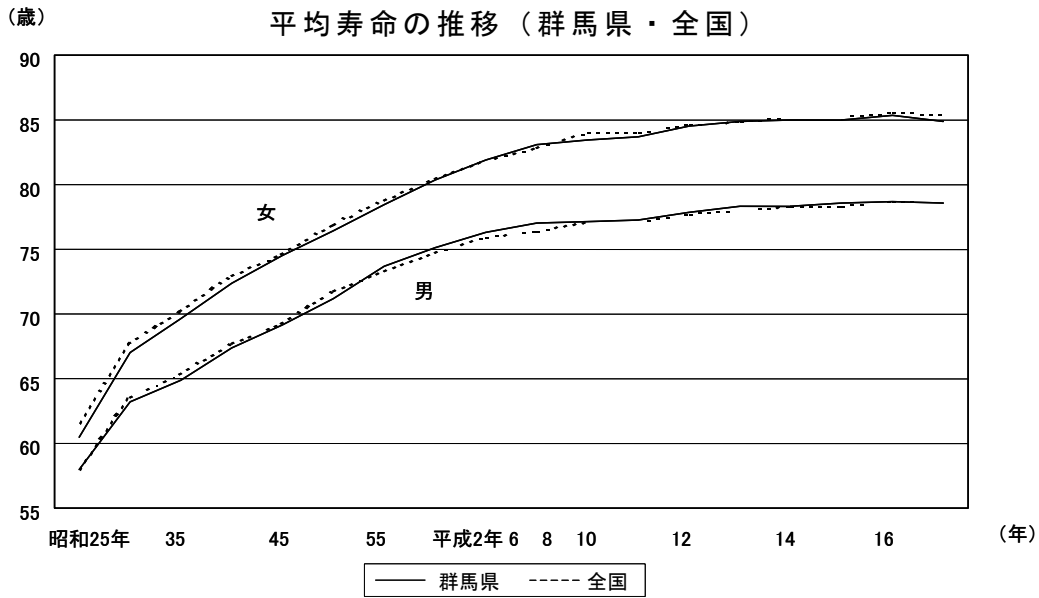
平成17年	
悪性新生物	504人
脳血管疾患	260人
心疾患	246人
肺炎	199人
不慮の事故	69人
自殺	59人
老衰	43人
その他	383人
死亡総数	1,763人

※出典：健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

(6) 平均寿命の比較と推移

平均寿命の比較 平成12年

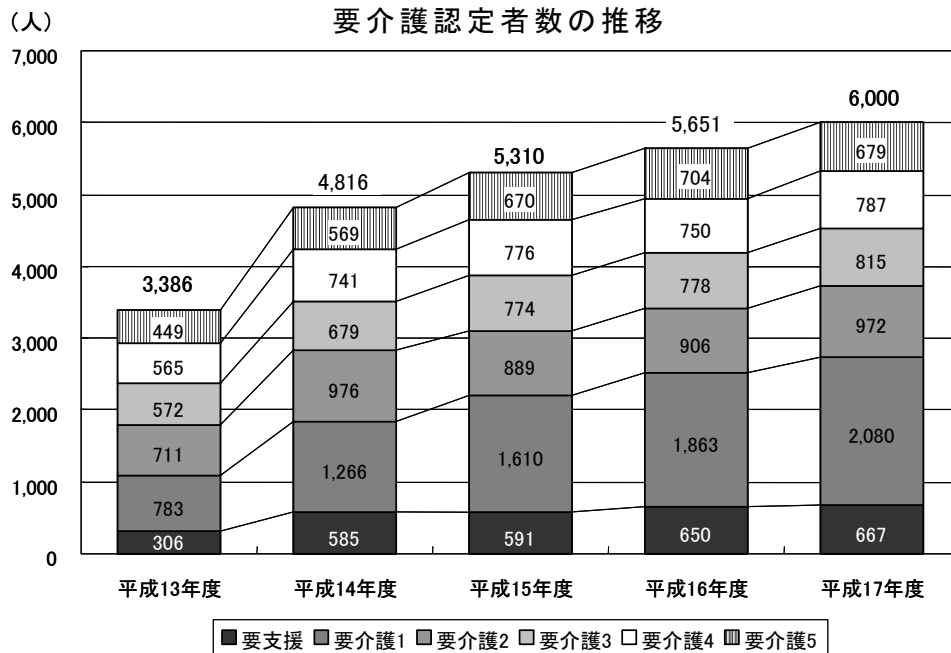
区分	男性	女性
太田市	77.5歳	84.3歳
群馬県	77.9歳	84.4歳
全国	77.7歳	84.6歳



※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

(7) 要介護認定者数の推移

平成12年度から介護保険制度が始まり、要介護認定者の全体数は年々増加しています。

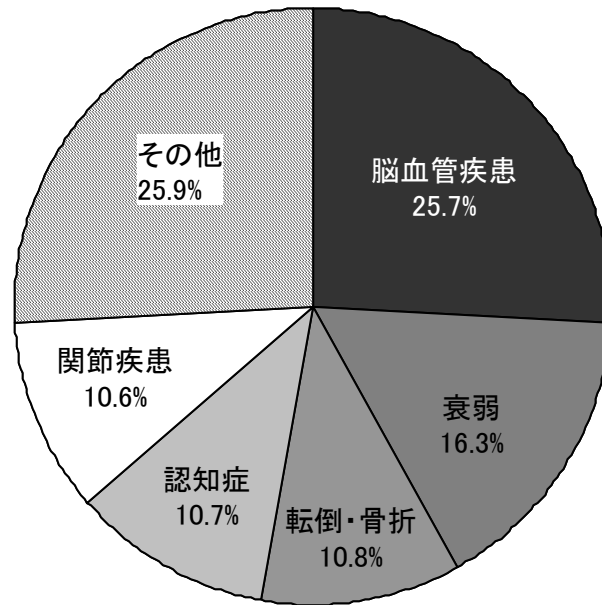


※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

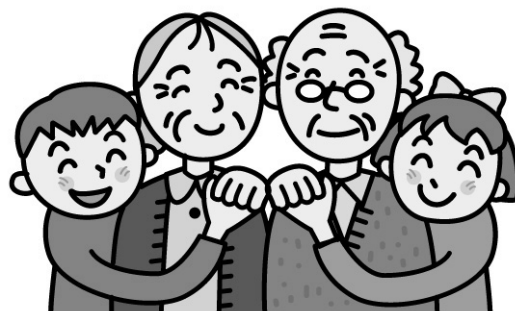
(8) 介護が必要となった原因

脳血管疾患が25.7%と最も多くなっており、4人に1人となっています。続いては衰弱の16.3%、転倒・骨折の10.8%となっており、認知症は10.7%となっています。

介護が必要となった原因



※出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成16年)

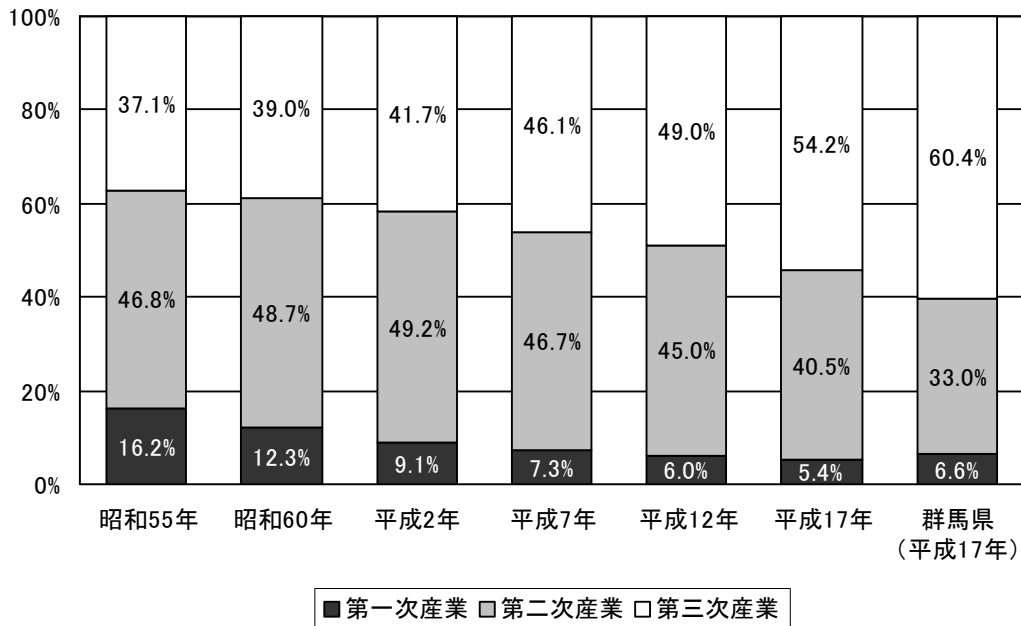


(9) 産業別就業人口（15歳以上）

太田市の産業別就業人口の割合の推移を見ると、第一次産業（農林水産業など）は年々減少しており、第二次産業（製造業など）は近年減少しています。第三次産業（商業、サービス業など）は年々増加しています。

また、群馬県全体と比較すると、第二次産業の割合が高く、第三次産業は少ないです。

産業構造の推移



※出典: 国勢調査

第一次産業・・・農業・林業・水産業

第二次産業・・・鉱業・製造業・建設業

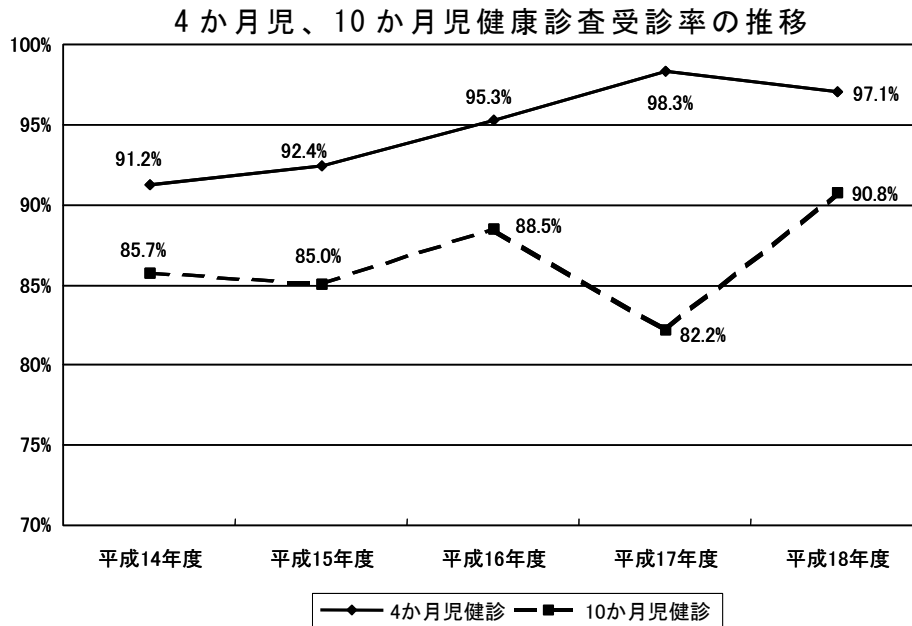
第三次産業・・・商業・運輸通信業・金融保険業・公務・自由業など
その他のサービス業

第2節 保健事業の現状

(1) 4か月児、10か月児健康診査受診率の推移

4か月児健康診査の受診率は平成14年度から増加しています。平成18年度は97.1%と高い受診率になっています。

10か月児健康診査の受診率は平成14年度から80%台で推移してきましたが、平成18年度は90%を超えています。

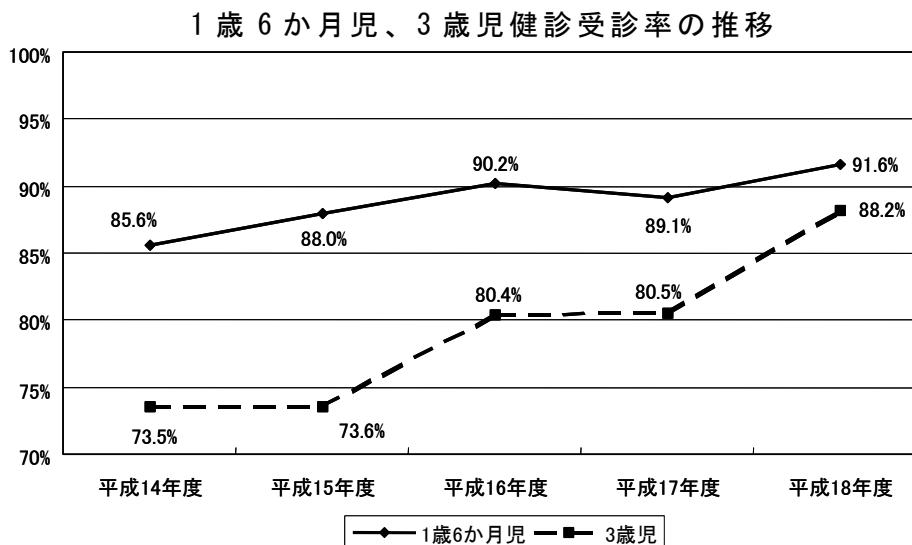


※出典：母子保健事業報告(群馬県健康福祉局)

(2) 1歳6か月児、3歳児健康診査受診率の推移

1歳6か月児健康診査の受診率は約90%で推移しています。

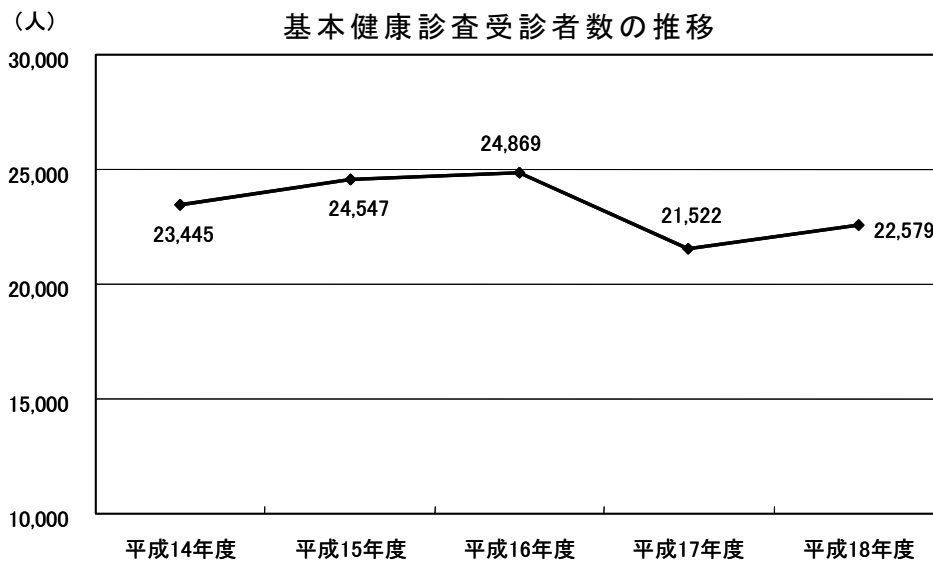
また、3歳児健康診査は1歳6か月児健康診査に比べると受診率は低くなっていますが、平成16年度から増加して、平成18年度は約90%と高くなっています。



※出典：母子保健事業報告(群馬県健康福祉局)

(3) 基本健康診査（40歳以上）受診者数の推移

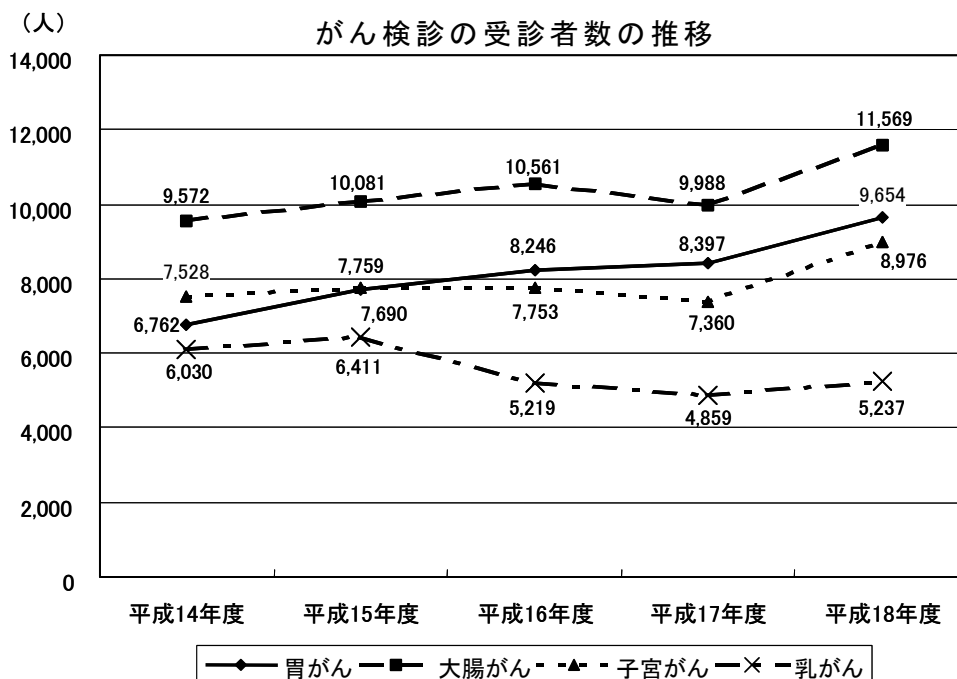
基本健康診査の受診者数は近年微減傾向にあります。



※出典:地域保健・老人保健事業報告

(4) 各がん検診受診者数の推移

がん検診の受診者数は概ね横ばいで推移しており、近年増加傾向にあります。



※出典:地域保健・老人保健事業報告

※乳がん検診は平成16年度から対象者が30歳以上から40歳以上の女性に変更。

※子宮がん検診は平成17年度から対象者が30歳以上から20歳以上の女性に変更。



(5) 平成19年度 保健衛生事業概要

母子保健事業

妊娠・出産に関する健康の保持増進の支援

- ・母子健康手帳交付
- ・妊婦健康診査受診票交付（健診費用の一部を助成）
- ・マタニティセミナー（お産の経過と母乳の話）
- ・食のセミナー（妊娠中・産後の食生活とあかちゃんの栄養の話）
- ・お母さんの歯科セミナー（妊娠中と子どもの歯の話・歯みがきの指導）
- ・不妊治療助成事業（不妊治療費用の一部助成）

乳幼児の健康保持増進の支援

- ・4か月児健康診査（診察、育児相談、離乳食の話）
- ・10か月児健康診査（医療機関で実施）
- ・1歳6か月児健康診査（診察、歯科診察、歯科・育児・栄養相談）
- ・3歳児健康診査（診察、歯科診察、歯科・育児相談）
- ・歯みがきひろば（乳幼児と妊婦の歯みがきの練習・歯科相談）
- ・発達相談（乳幼児の発育発達の相談）
- ・ことばの相談（ことばなどに不安を持つ児と保護者の相談）
- ・すくすく親子教室（子どもの成長発達に合わせた接し方を促す教室）

母子の健康の保持増進と子育て支援

- ・あかちゃんセミナー（これから親になる人などを対象にあかちゃんの発達の話）
- ・母乳相談（3か月未満の産婦とあかちゃんの母乳の相談）
- ・乳幼児相談（発育・子育てなどの相談）
- ・新生児訪問指導（1か月未満の乳児の訪問）
- ・乳幼児訪問指導（3か月前後の乳児の訪問など）
- ・産後ケア事業（産後、母親と新生児が助産院へ入所してケアを受ける費用の助成）

成人保健事業

生活習慣病などの早期発見と改善の支援

- ・基本健康診査（40歳以上 循環器病や糖尿病の早期発見、改善）
- ・肝炎ウイルス検査（40歳 B型・C型肝炎ウイルス検査）
- ・ヘルスチェック（25・30・35歳 循環器病や糖尿病の健診）
- ・骨密度検診（30・35・40・45・50・55・60・65・70歳の女性）
- ・歯周疾患検診（40歳以上 口腔内診査・予防のアドバイス）

がんの早期発見の支援

- ・胃がん検診（40歳以上）
- ・大腸がん検診（40歳以上）
- ・子宮(頸部)がん検診（20歳以上女性）
- ・乳がん検診（30歳以上女性）
- ・前立腺がん検診（50～74歳男性）

生活習慣病を予防する支援

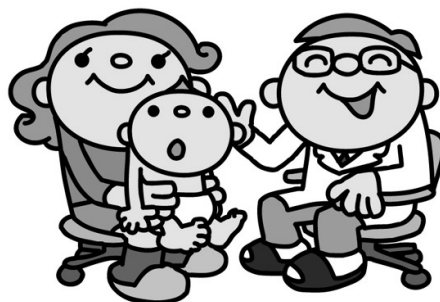
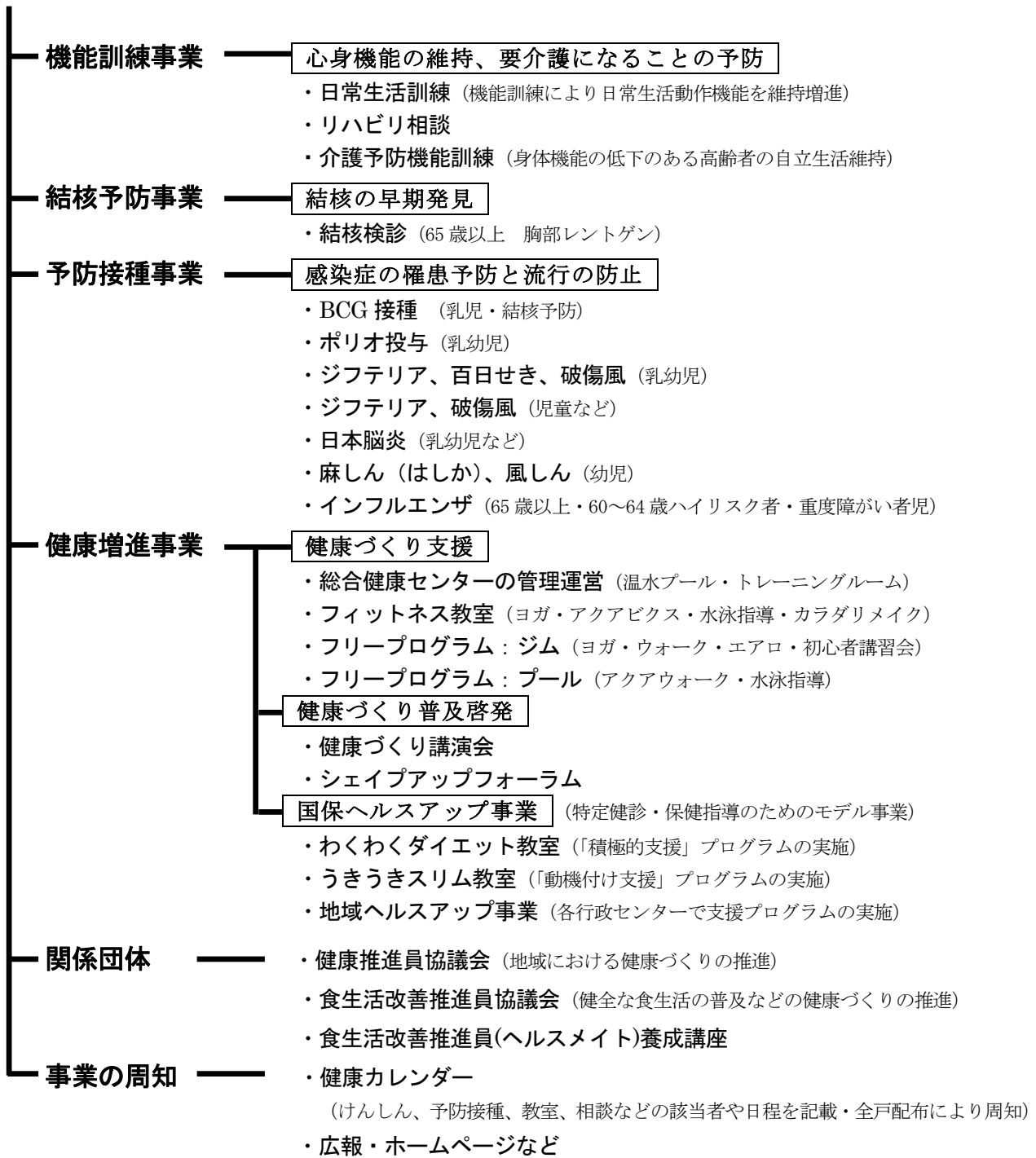
- ・基本健康診査後の健康相談 ・健康教育
- ・健康教室（生活習慣病の予防、改善の教室）

高齢者の健康保持増進の支援

- ・生活機能評価事業（65歳以上 心身の機能低下の早期発見）
- ・在宅療養者口腔衛生相談（機能低下のある高齢者などの訪問歯科保健相談）

市民の健康管理の支援

- ・健康相談（心身の健康に関する相談）



第3節 特定7分野の現状

(1) 食生活の現状

- ①特に若者世代で朝食を食べていない割合が高くなっています。
- ②野菜を毎日食べていない人が若者世代で約3割、働き盛り世代で2割弱となっています。
- ③乳類を毎日とる人は各世代で40%～50%で、低い傾向にあります。
- ④適切な食事内容・量を知っている人は若者世代で33%と低く、働き盛り世代でも60%弱となっています。
- ⑤肥満者の割合は、男性は働き盛り世代が31%で一番多くなっており、女性は高齢世代が19%と一番多くなっています。
- ⑥若者世代でやせ型が多く、男性の働き盛り世代が最も肥満型が多くなっています。
- ⑦若者世代の60%強の人が自分の食生活に問題があると思っています。また、自分の食生活に問題があると思っている人の約9割の人が改善したいと思っています。

図1 朝食を食べている人の割合

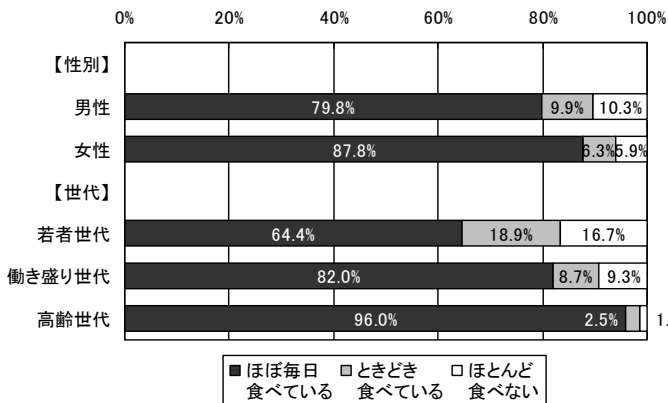


図2 野菜を食べている人の割合

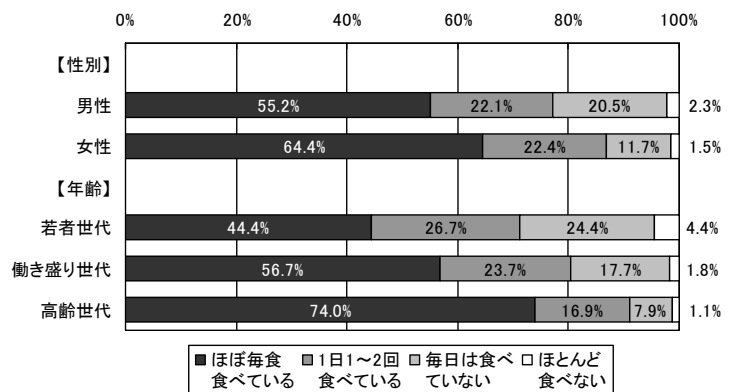


図3 乳類をとっている人の割合

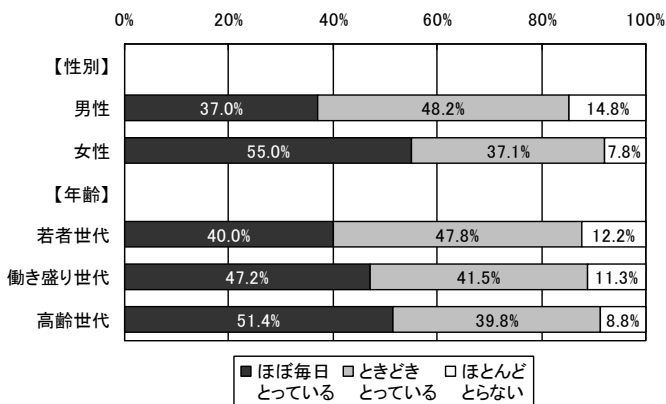
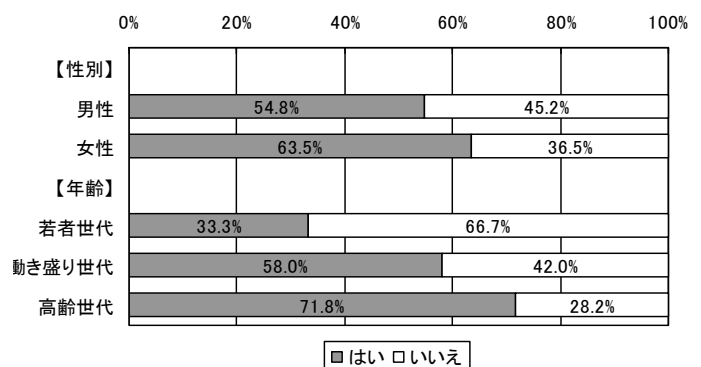
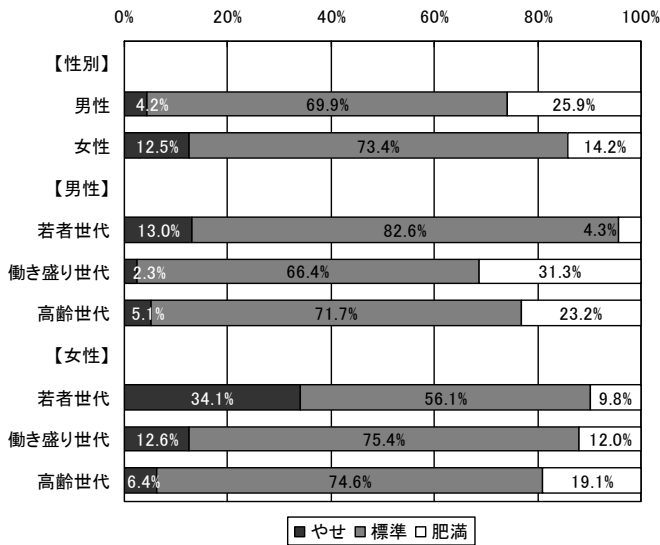


図4 適切な食事内容・量を知っている人の割合



※若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）
（資料：平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査）

図5 BMIによる体型判定



※BMI

肥満度を表す指数として最もよく用いられている
 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

- 18.5未満 やせ
- 18.5以上25未満 標準
- 25以上 肥満

図6 自分の体型をどう思っているか

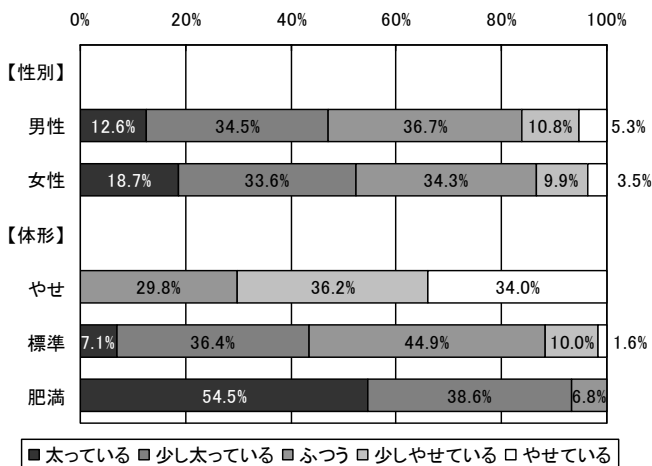


図7 自分の標準体重を知っていますか

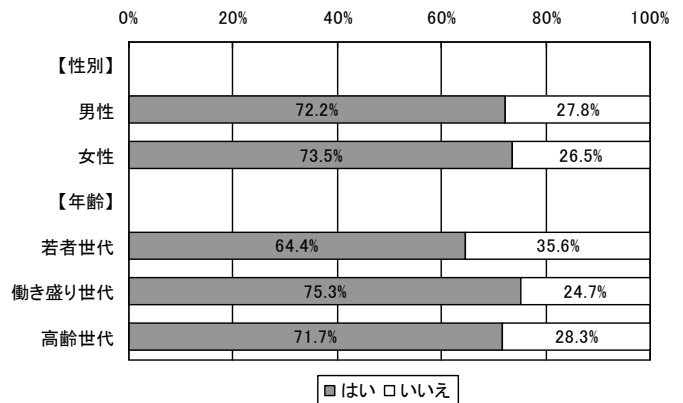


図8 自分の食生活に問題があると思いますか

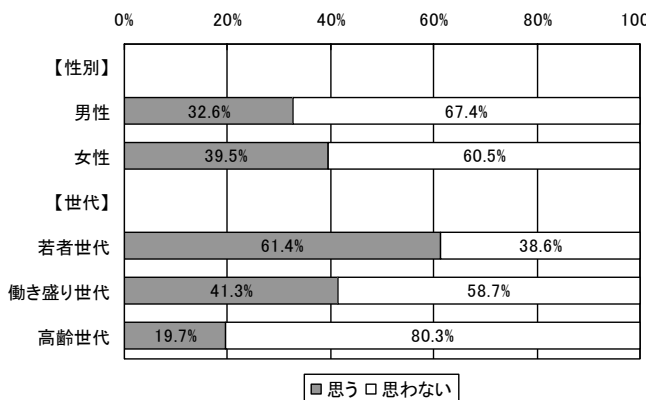
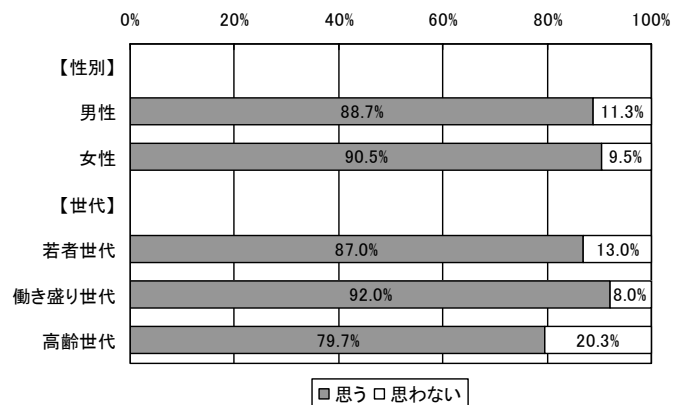


図9 図8で「思う」と答えた人で改善しようと思っている人



(2) 運動習慣の現状

- ①意識的に体を動かしている人の割合は、働き盛り世代で約54%、高齢世代で約73%となっています。
- ②1日30分、週2日以上運動を1年以上継続している人の割合は、若者世代・働き盛り世代で低く、2～3割にとどまっています。高齢世代は約53%になっています。
- ③運動はウォーキングが最も多くなっています。ほとんど運動しないと答えた人は3割強で、理由は忙しくて時間がない割合が最も高く、きっかけがないと答えた人も多くなっています。
- ④買物に徒歩または自転車を使う人の割合は若者世代・働き盛り世代で特に低く、60歳を境に徒歩または自転車を使う人の割合が増加しています。

図1 健康のために意識的に体を動かしている人の割合

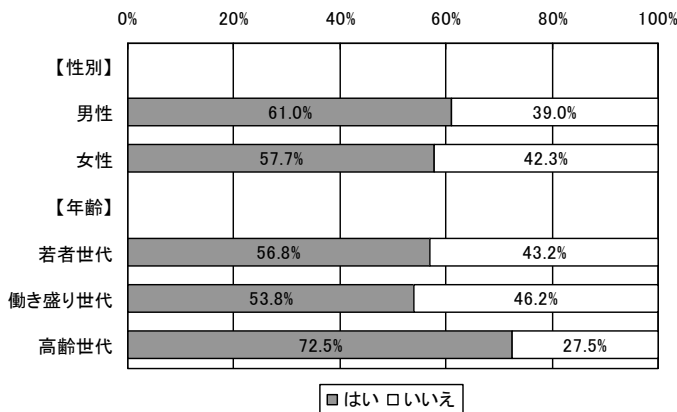


図2 1日30分週2日以上運動している人の割合

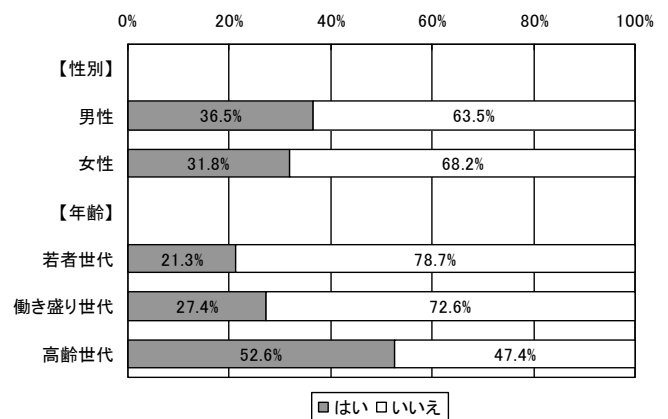


図3 普段どのような運動をしていますか(複数回答)

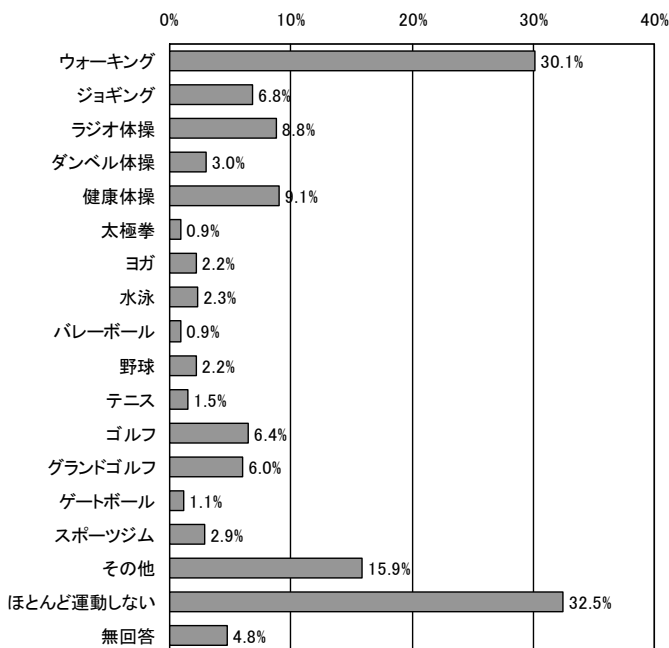
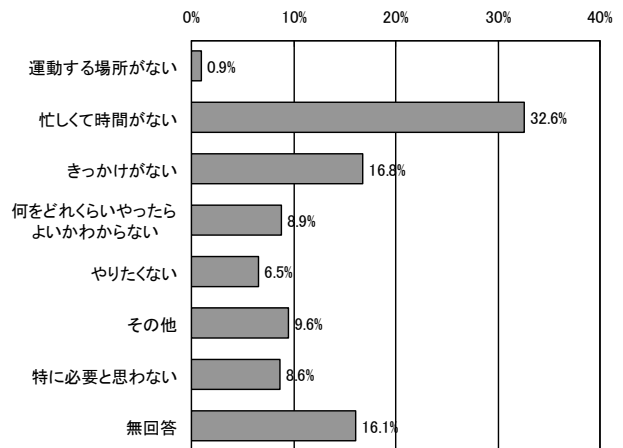


図4 ほとんど運動をしていない理由



【その他】
山歩き、バドミントン、バスケットボール
筋肉トレーニング、卓球、フラダンスなど

※若者(18歳~29歳) 働き盛り(30歳~64歳) 高齢(65歳以上)

(資料:平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査)

図5 日常の買物時の交通手段

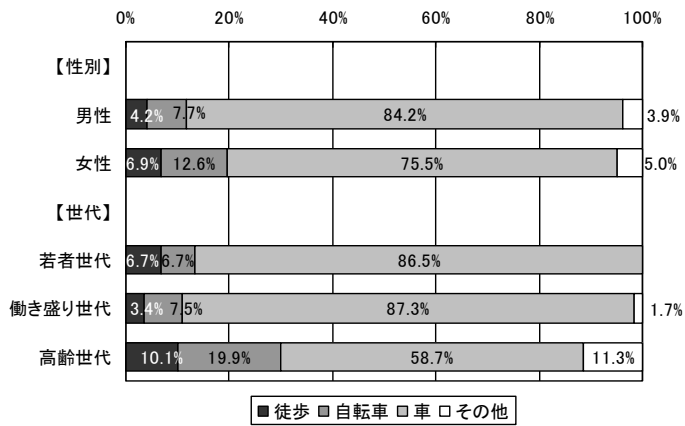


図6 地域活動への参加

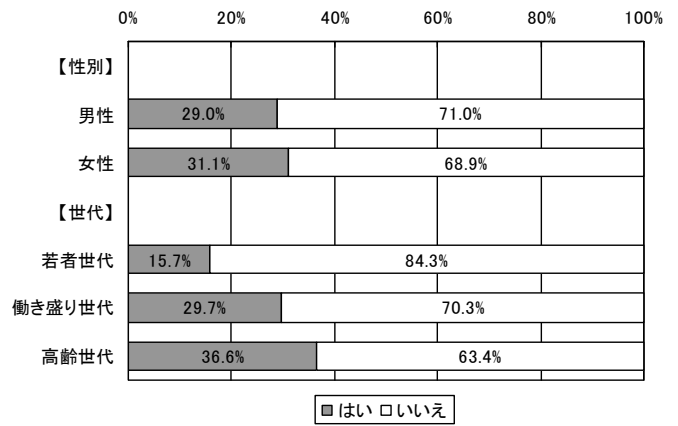
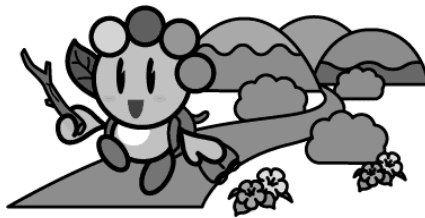
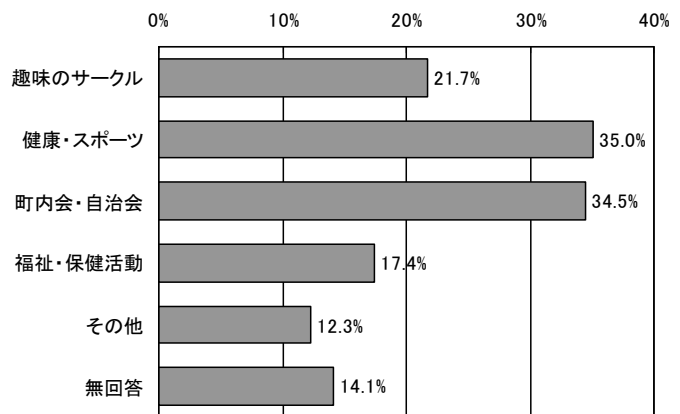


図7 図6で「はい」と答えた人の活動内容 (複数回答)



(3) 休養とこころの現状

- ①肉体的な疲労を翌日まで残す人の割合は働き盛り世代で高く、約49%になっています。また、若者世代では約42%、高齢世代は約39%になっています。
- ②精神的な疲労を翌日まで残す人の割合も働き盛り世代で高く約58%、若者世代が約50%、高齢世代が約45%になっています。
- ③年齢が65歳以上になると、年代を追うごとに肉体的及び精神的慢性疲労の人の割合が増加し、まったく疲れていない人と両極端の傾向になっています。
- ④若者世代・働き盛り世代の3割強の人が睡眠を充分にとれていないと回答しています。

図1 肉体的な疲労の人の割合

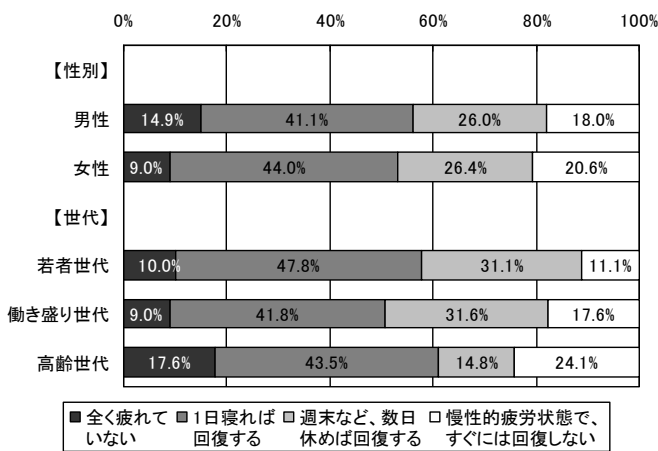


図2 精神的な疲労の人の割合

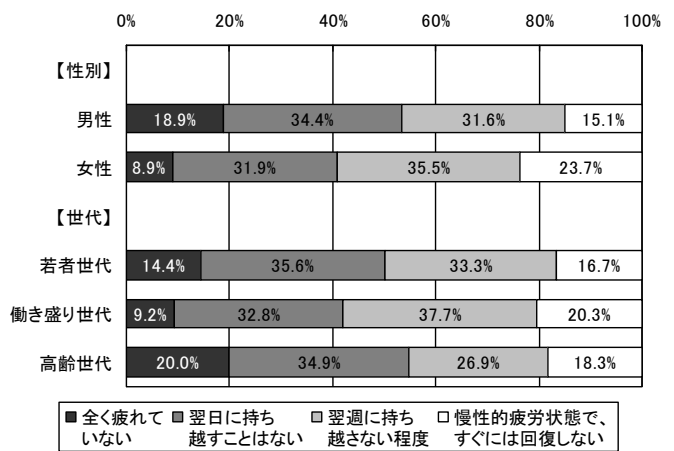
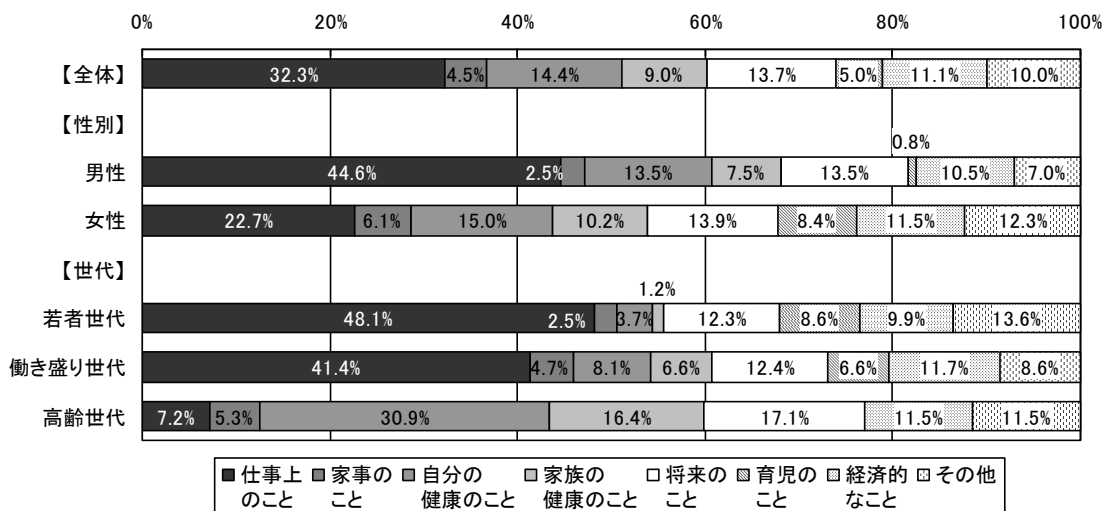


図3 ストレスの理由



※若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）
 （資料：平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査）

図4 ストレスを感じたとき、解消法はありますか

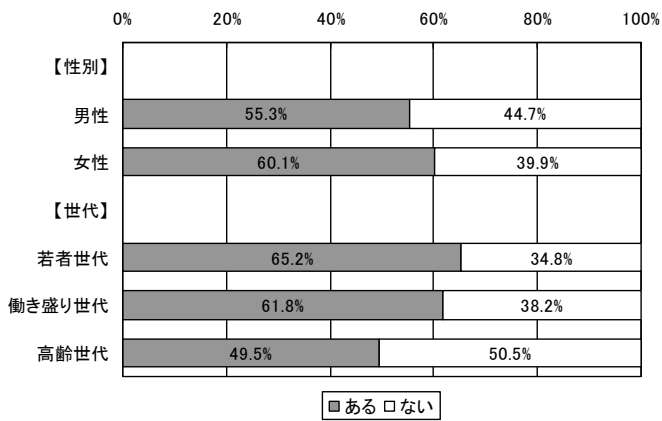


図5 睡眠が充分とれている人の割合

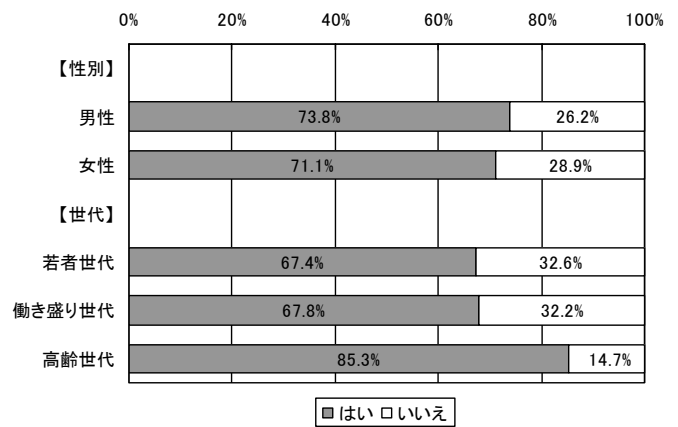


図6 1日の睡眠時間

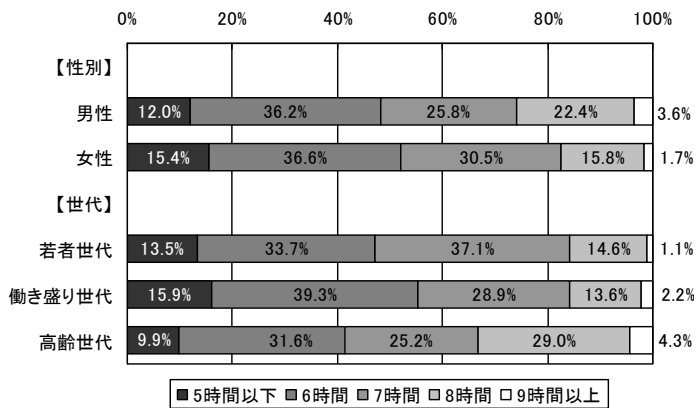
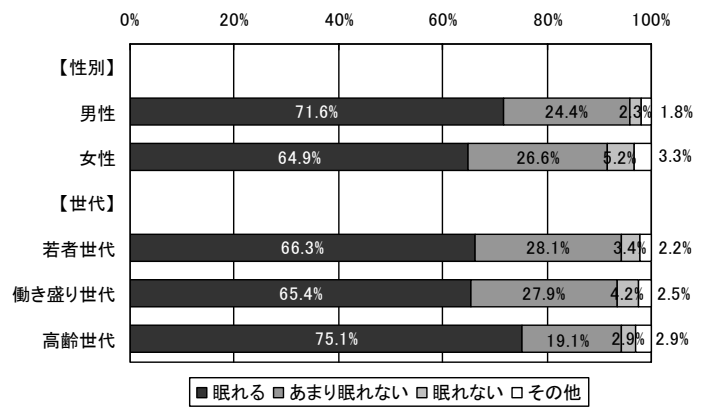


図7 普段ぐっすり眠れますか



(4-1) 生活習慣【たばこ】の現状

- ①喫煙者の割合は男性に多く、男性は働き盛り世代が女性は若者世代で最も割合が高くなっています。
- ②たばこを少しでもやめたいと思っている人の割合は男性が6割弱、女性が7割弱となっています。
- ③たばこを少しでもやめたいと思っている人の中で禁煙治療を受けたいと思うと回答した人は約39%となっています。

図1 喫煙の状況

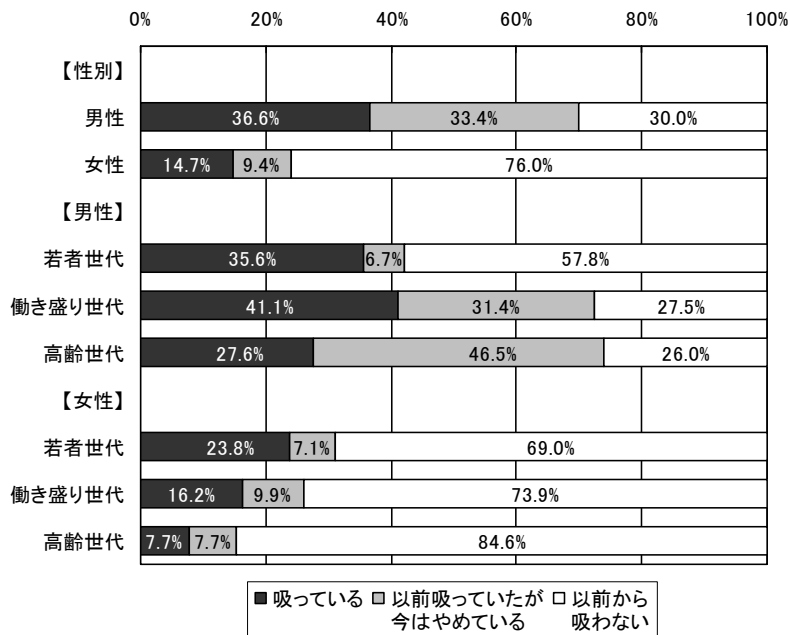


図2 タバコをやめたいと思いますか

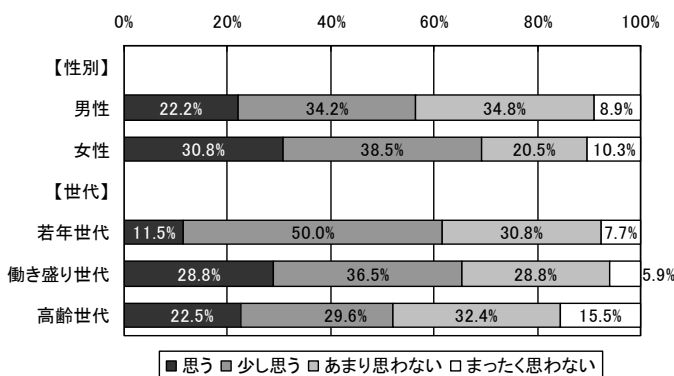
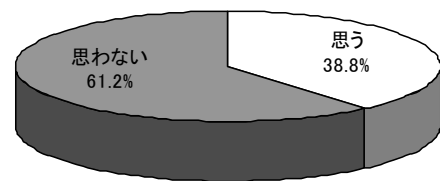


図3 禁煙治療を受けたいと思う人の割合



※若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）
 （資料：平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査）
 ※喫煙の設問は20歳以上の方の回答です。

(4-2) 生活習慣【アルコール】の現状

- ①毎日お酒を飲むと回答した人の割合は男性に多く、世代別では働き盛り世代がもっとも多くなっています。お酒を飲まないという人の割合は高齢世代がもっとも多くなっています。
- ②毎日お酒を飲むと回答した人で、2合以上飲む人は男性で約53%と高い割合になっています。世代別では男性の働き盛り世代が約63%と最も高い割合となっており、男性の高齢世代では約33%となっています。
- ③多量飲酒（毎日3合以上）の人のアンケート回答者男女別総数に対する割合は、男性5.6%、女性0.5%となっており、特に働き盛り世代の男性で8.7%と高くなっています。

図1 飲酒していますか

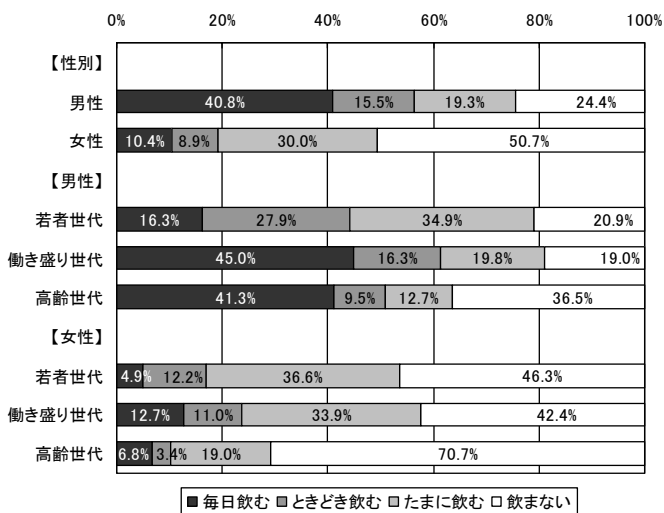


図2 どのくらいお酒を飲んでいますか
(毎日お酒を飲む人)

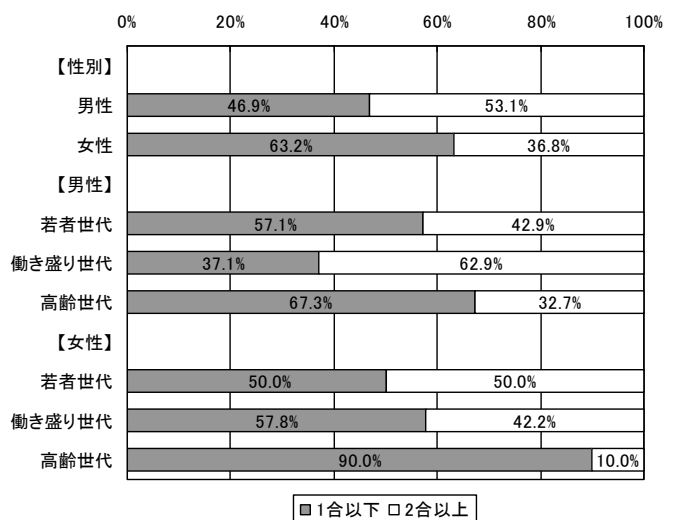


表1 毎日お酒を飲む人の飲酒量
(アンケート回答者男女別総数に対する割合)

項目	1合未満	1合位	2合位	3合以上
男性	6.5%	11.8%	15.2%	5.6%
女性	3.4%	2.7%	3.1%	0.5%

※若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）
 （資料：平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査）
 ※飲酒の設問は20歳以上の方の回答です。

(5) 歯の健康の現状

- ①高齢世代の歯の状況は、歯が全部ある人が約12%、ほとんどある人が約27%となっている一方まったくないと回答した人が約17%と個人差が大きいことが伺えます。
- ②歯みがきや歯肉の手入れなど、歯の指導を受けたことがある人は約6割となっており、女性のほうが男性より多くなっています。

図1 歯は何本ありますか

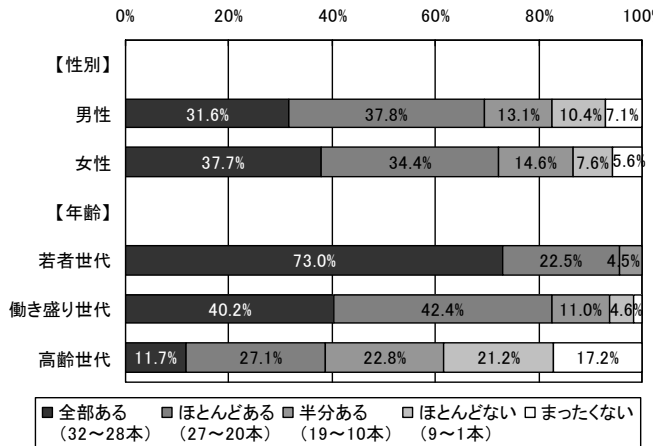
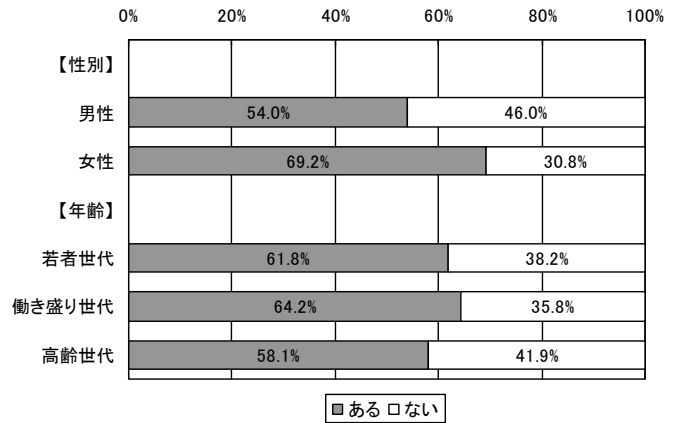


図2 歯の指導を受けたことがありますか



※若者 (18歳~29歳) 働き盛り (30歳~64歳) 高齢 (65歳以上)
 (資料: 平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査)



(6) 生活習慣病〔糖尿病・循環器病・メタボリックシンドローム〕の現状

- ①定期的に健康診査や人間ドックを受けていると答えた人の割合は、男性の方が高く、世代を追うごとに割合が高くなっています。
- ②高脂血症の治療中または受診を勧められた人の割合は、高齢世代が約14%と最も高くなっています。
- ③高血圧の治療中または受診を勧められた人は、男性で4人に1人、高齢世代ではおよそ3人に1人となっています。
- ④糖尿病の治療中または受診を勧められた人は、男性で10%、女性で約5%となっており、世代別では高齢世代が約12%で最も高くなっています。

図1 定期的に健康診査や人間ドックを受けている人の割合

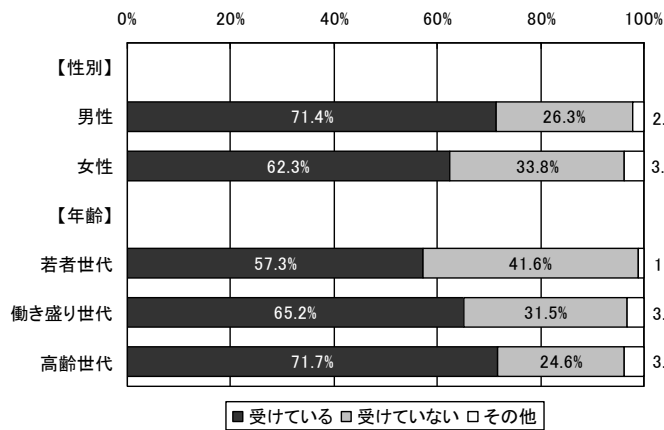


図2 高脂血症の治療中または受診を勧められた人の割合

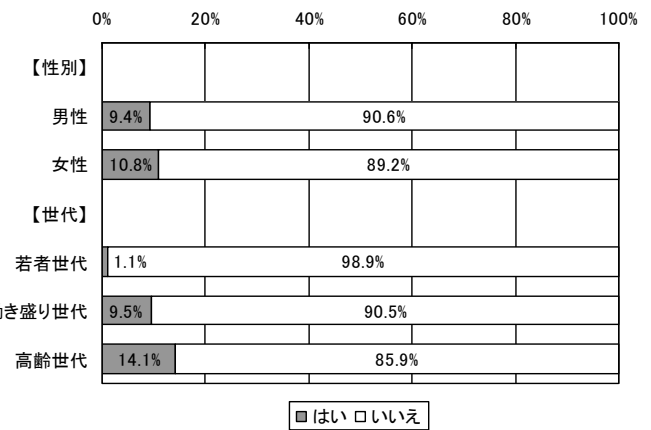


図3 高血圧の治療中または受診を勧められた人の割合

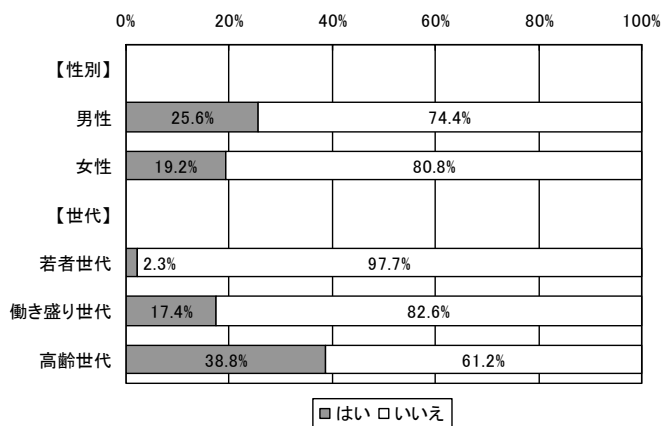
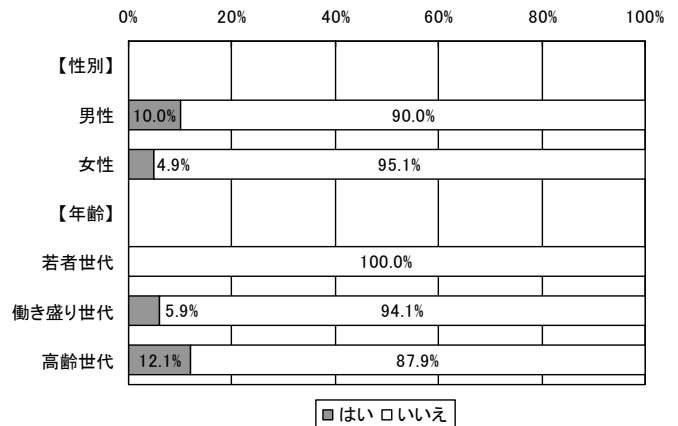


図4 糖尿病の治療中または受診を勧められた人の割合



※若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）
（資料：平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査）

【糖尿病】

糖尿病は生活習慣と社会の変化に伴い、増加しています。

糖尿病は脳卒中や虚血性心疾患の発症と進展を促進し、また、糖尿病が進行すると網膜症、腎症、神経障害などの合併症を引き起こします。

糖尿病の予防対策は、市町村や職場などでの健康診査などにより、早期発見・早期治療や改善が図られてきています。また、糖尿病発症因子の一つとして、肥満や身体活動の低下・運動不足があるとされています。これらの因子は糖尿病発症因子の中で、変更可能な因子であることから生活習慣の面で適正体重の維持や運動習慣づくりが推進されています。今後もこれらの予防対策を充実していく必要があります。

【循環器病】

循環器病とは脳卒中、虚血性心疾患、高血圧、高脂血症などを言います。脳卒中はその後遺症により「寝たきり・認知症」の主要な要因となっていることから循環器病の対策が重要な課題になっています。

循環器病の予防対策は、市町村や職場などでの健康診査などで、脳卒中や虚血性心疾患の発症の危険要因（高血圧、高脂血症、糖尿病など）を持つ人に対して保健指導を行い、要医療者に対しては受診勧奨を行ってきました。今後もこれらの対策を推進していく必要があります。また、高血圧、高脂血症、糖尿病は日常の生活習慣の影響が大きいことから、適切な生活習慣の維持、また見直しや改善が重要であり、これらを支援する施策をさらに充実していく必要があります。

【メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）】

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）とは内臓脂肪型肥満（内臓に脂肪が蓄積）に加えて、高血圧、脂質異常、高血糖のうちいずれか2つ以上をあわせもった状態をいいます。メタボリックシンドロームを放置すると、高血圧、脂質異常、高血糖などが継続、また悪化し、動脈硬化を進行させ、脳卒中や虚血性心疾患などの循環器病を招く原因になります。

平成20年度から、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健康診査が「特定健康診査」という名称で医療保険者が実施主体となり導入されます。

（ 7 ） がん検診の現状

平成18年度 がん検診受診者数

種 別	年 齢	受 診 者 数
胃がん検診	40歳以上	9,654人
大腸がん検診	40歳以上	11,569人
子宮(頸部)がん検診	20歳以上女性	8,976人
乳がん検診	40歳以上女性	5,237人

(資料：平成18年度 地域保健・老人保健事業報告)

第4節 アンケート結果からの現状

(1) 健康状態などについての現状

図1 現在の健康状態について

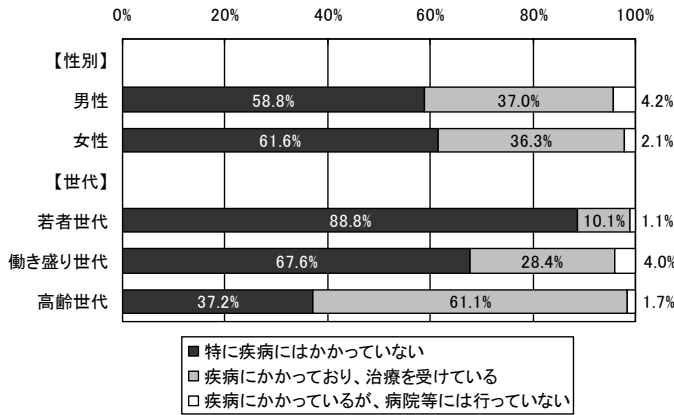


図2 健康維持・増進についての取り組み

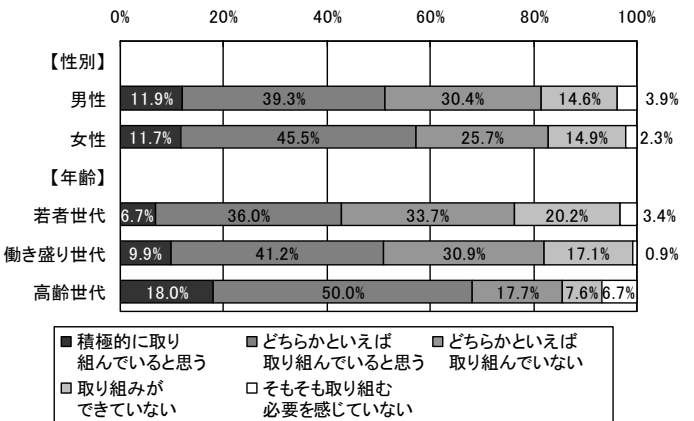


図3 病気予防・健康増進についての取り組み(複数回答)

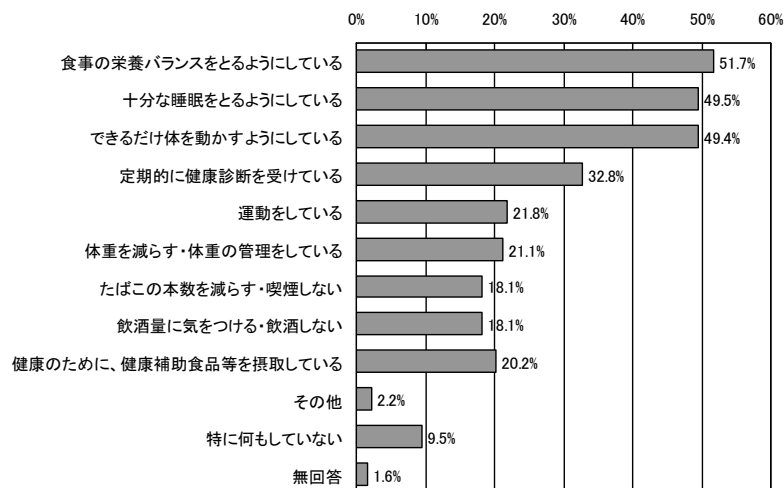
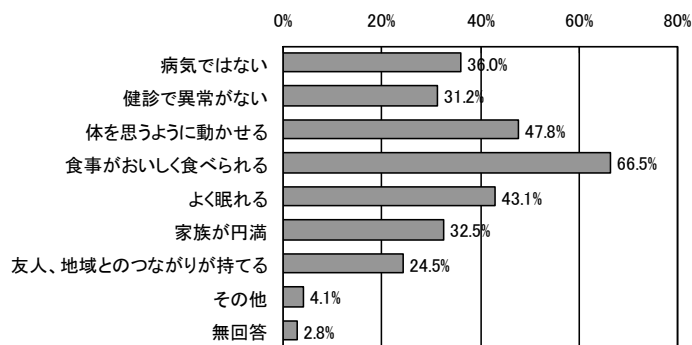


図4 健康だと感じる時(複数回答)



※若者(18歳~29歳) 働き盛り(30歳~64歳) 高齢(65歳以上)

(資料:平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査)

(2) 健康に対する関心の現状

図1 健康教室や講習会への参加の有無

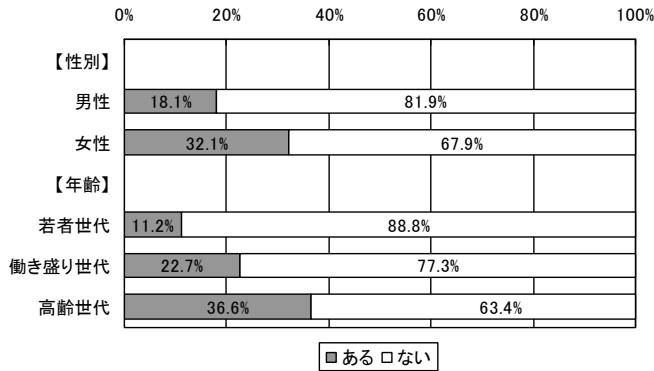


図2 図1で参加しなかった理由

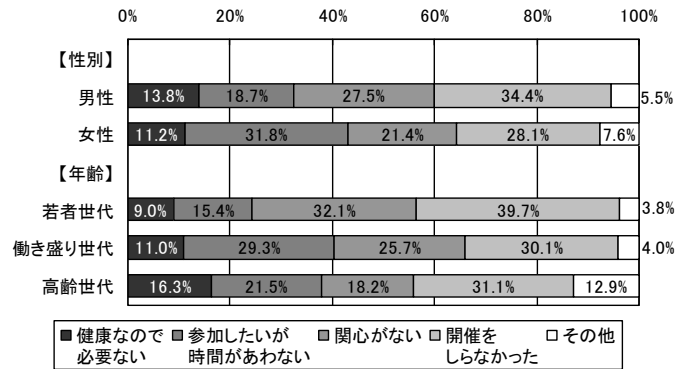


図3 かかりつけ医の有無

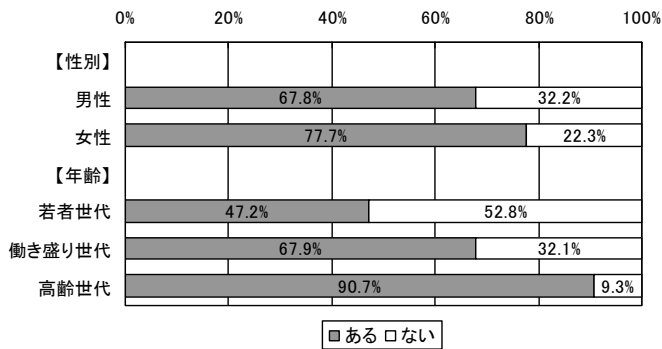


図4 医者にかかる割合

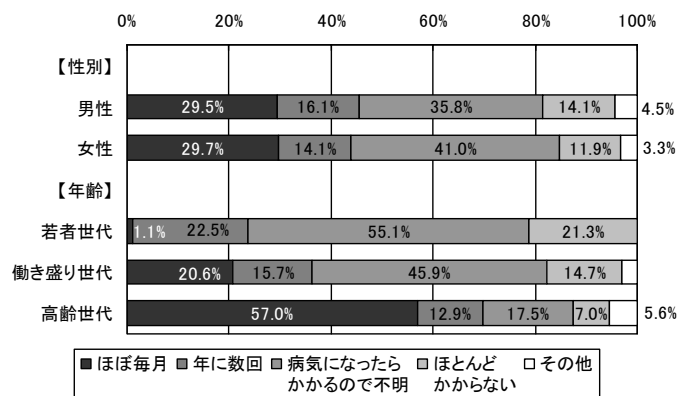
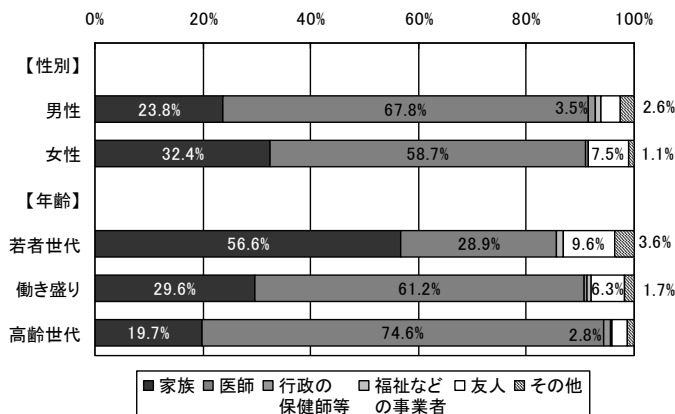


図5 健康について相談する人



※若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）
（資料：平成19年度 太田市健康づくり計画アンケート調査）